

**▼ 新年あけましておめでとうございます**

昨年も河村隆平会長のもと各委員長はじめ多くの会員皆様のご協力により無事事故も無く年間行事も終了しました。

特に、昨年2月にはJSAF外洋合同委員会をこの函館にて盛大に開催できたのも、外洋津軽や青森セーリングクラブのご協力のお陰と大変感謝しております。

また、レースではペリー提督来航160周年記念レースも函館日米協会の支援で成功裏に開催されました。このように当協会は様々な団体や会員そしてその家族の理解の上にあることを、私たちは決して忘れることの無いよう日頃から感謝しなければなりません。

そして、観光都市人気ナンバーワンの地位に就く函館の西部地区にこの上ない泊地を運営できるのも多くの先輩の努力の賜物と決してこの間の歴史を忘れてはなりません。

さて、今年も花びしホテル杯、トヨペットカップレースはもちろん、会員拡大のために楽しい企画を皆様のアイデアもいただきながら進めて行きたいと思っております。

まだ厳しい冬は続きますが春はもうすぐです。新しいポンツーンも入れ替えのため現在計画を進めておりますし懸案事項の新クラブハウスの設置に向けもう少し皆さんで知恵を出し合ひましょう。

今年1年宜しく願います。

理事長 石川 彰

▼ 平成26年度JSAF全国加盟団体代表者会議

去る、1月24日(土)東京渋谷岸記念体育館にて表記会議が開催された。

河野会長から2020東京オリンピック開催に向け、会員一致団結し世界のセーラーが満足できる大会になるよう改めて協力要請があった。

引き続き式次第にはいりH27年度計画、選手強化事業における滞在費の経理処理、会員管理システムの説明後昼食休憩に入った。

午後から平成26年度(公財)日本セーリング連盟定期表彰実施要領にもとづく表彰式が行われ功労賞3名、功績賞2名、優秀指導者賞2名の表彰を行った。

その後、加盟団体からの報告を受け、オリンピック強化委員会、制式艇種推進プロジェクト委員会、国体委員会、レース委員会、ルール委員会、ワンデザイン計測委員会、普及指導者委員会、国際委員会、環境委員会、外洋計測委員会とう各委員会からの報告を受けた。

特に、レース運営についての主催者の事故に対しての責任問題、ルールの改正(抗議→プロテスト)の説明があった。2020東京オリンピックまで残すところ5年各委員会連携を深め今後の任務に当たっていく事を確認し連絡会議は終了した。

特別加盟団体 南北海道外洋帆走協会 石川彰

1月31日に長崎にて開催されましたJSAF外洋団体長会議と平成26年度外洋合同委員会の内容は次回号でお知らせします。

*****アンカーライト*****

第25話 「太平洋を渡った虫ゴム」

ポンツーンの前に一晚チャリを置いて盗まれたことがあった。うっかり鍵をかけそびれた拙も悪いのだが。艇に泊まっていて夜中になにやら酔っ払いの声がかえりたなあと思っていたら、朝起きると無くなっていた。

それほど高価なチャリではないのだが、折りたたみの自転車の元祖であるアメちゃんのD社製でお気に入りの1台でもある。

今朝ほどの酔っ払いの仕業なら近くに置き去りにされている可能性もありふんで辺りを歩いてみることにしたら時計台のそばで管理人のおっちゃんが釣り人となんやらワイワイ話をしている。よく見るとそこには見慣れた拙のチャリが。聞けばサッカー場のほうに捨てられていたとのこと。

なにとはともあれ事情を説明し引き取ったが無事であるはずもなく、チェーンは外れ、ご丁寧にも虫ゴム一式が両タイヤともに抜き取られていた。まあ、被害は虫ゴム2個でありこれで済んだのは不幸中の幸いであつた。

ちょうど沖縄帰りのマイウェイの小松さんに話したら、「虫ゴムあるよ」との一発返事!

さすが、太平洋を股にかけた長期クルーズ艇にないものはない。空気入れも貸してもらい難なく元に戻った。

この虫ゴム、実は小松さんがワイハにいたときチャリの虫ゴムがイカレ、島内を探し回っても全然無いのだと。あちらさんのチャリは空気を入れるシステムがそもそも違って「虫ゴム」ってナニ?の世界だそうなのでして、やむを得ず「勸進丸」に連絡して日本から郵便で何個か送ってもらったということである。つまり、拙のチャリにはワイハを往復した塩気のある「虫ゴム」殿が収まっているのである。しかもこの「虫ゴム」様、帰りはヨットで日本まで航海しているのだ。

ご主人様ですら行ったことのないワイハをこの「虫ゴム」様は飛行機とヨットで往復しているのである。マイリマシタ。いつの日かこのチャリ殿を自邸に積んでワイハへ行きたいものである。

本年も楽しくよろしく願います。

~~編集者後記~~

理事長の年頭挨拶にもありますように、今年は老朽化したポンツーンの入替を計画しております。

外帆会員の皆様には労力はもちろんのこと、資金面においてもポンツーン管理費という形でご協力いただくこととなります。

函館のウォーターフロントの顔として、また、利益を得ない唯一のヨットハーバーとして生まれ変わるために皆様のご協力を節にお願いいたします。